

<令和5年度地域生活支援拠点等の運用状況について>

地域生活支援拠点等の機能・運営状況の評価

I. 地域生活支援拠点等の機能に関する評価

項目	評価（取組状況）
要支援者の事前把握及び体制	充足度：一定程度できている 拠点コーディネーターを中心に、医療的ケアが必要な重度心身障害者や強度行動障害者がある程度把握している。
相談機能	充足度：一定程度できている 24時間の相談体制を確保しており、緊急時には、自拠点等のショートステイやグループホームでの受入れに繋げることができる。
緊急時の受け入れ・対応	充足度：一定程度できている 多機能拠点型として、自拠点等の短期入所事業所やグループホームの緊急受入れ先を確保しつつ、他事業所との連携体制を確保している。
地域移行のニーズ把握	充足度：一定程度できている 定期的なニーズの把握はできていないが、必要に応じて、退所・退院後に向け本人の意向を把握している。
体験の機会・場の確保	充足度：一定程度できている 体験の機会・場を確保し、希望者等に対して実際に体験の機会を提供できている。
専門的人材の確保・養成	充足度：一定程度できている 専門的な人材の確保・養成のニーズは、ある程度把握できているものの実施には至らなかった。外部研修の活用のため、受講勧奨を行うことで、受講に繋がられた。
地域の体制づくり	充足度：一定程度できている 緊急時や地域移行についての対応のため、拠点コーディネーターが中心となって、相談支援部会において事例検討や課題の共有を行っている。

Ⅱ．地域生活支援拠点等の運営状況に関する評価

項目	評価（取組状況）
地域生活支援拠点等の運営状況	充足度：あまりできていない 拠点等に関する情報について、市のホームページでの周知に留まっており、拠点等自らの情報発信はできていない。